

ともしび



井上直之
(釋直道)



あるがままの私が照らし出されて

今年の夏は雨の日が多く、コロナ禍で、皆さん多くの時間を自宅で過ごされたのではないですか。

今年六歳と四歳になった娘たちも夏休みなのに外に出られない日々が続いており、天気の良い日でも公園に連れて行くことしかできませんでした。

そんなある日、子どもたちが綱跳びの練習をしていたことがありました。私は昔、綱跳びが得意だったので、子どもたちに自慢しました。しかし上手く跳べません。頭の中では跳べるはずなのに身体がついてきません。ボカンとしている子どもたちの顔。「そんな……まさか」とむきになつた私は一呼吸おいてもう一度本気で跳びました。すると突然グキッと背中に痛みが走りリタイア。私は悔しく残念な気持ちで子どもたちと公園を後にしてしまった。それから数日後のことです。

自宅のポストに宗教の勧説のチラシが入っていました。目を通すとその宗教に入ればケガや病気が治り、悩みが解決するという内容です。宗教でこの背中の痛みが消えるなら、これほど有難いことはありません。

しかしながら、私たちは病気が治つたり欲しいものが手に入るから南無阿弥陀仏と手を合わせているのでしょうか。

そうではないはずです。お祈り

さまは生きるものすべてにとって生老病死は避けられない苦し

みであると説かれました。

そして、昔のように綱跳びが上

手く跳べず、背中が痛い、子どもたちに格好悪い姿を見せるあるがままの私が照らし出されて行くのが仏さまのおはたらきです。

あるがまま照らし出されることで、偽りのない自分自身の「気づき」が生まれ、五木寛之氏の言葉を借りると、その気づきが私の「生きるヒント」に繋がつていき

ます。
以前、龍谷大学のある教授が「死を忘れて自らがいつまでも生きられると思っている間は、人々の違いや優劣が気になり、劣等感や敵対感も生まれてくる。しかし、死から生を見れば、すべて平等であり、いかなるいのちも、かけがえのないものであることに気づかれる」と仰いました。

私たちが普段抱えている不安、数々の理不尽なこと。彼らは常に私たちに付きまとっています。しかし、そんな私たちだからこそ、ともにお念仏をお称えさせていただくことで、深い感謝と尊い気持ちが生まれてくるのではないかでしょうか。

コロナの影響で、まだ限られた人数でしかお参りできないのは大変残念ですが、浄土真宗のみ教えをあきらかにしてくださった親鸞聖人のご恩を偲び、精一杯「報恩講」をお勤めさせていただきます。

年末恒例の「成道会法要・バザー」年が明けての「御正忌報恩講・新年会」の楽しい二つの催しは中止とさせていただきます。

二月四日の婦人会「立春拌賀式」につきましては、コロナの感染状況を見ながら、可能であれば集まりたいと考えています。

前住職である母秋嶺院釋妙澄師の命日である十一月八日の前日、七日にお勤めする「秋嶺忌」について、説明させていただきます。

昨年三回忌を勤めるにあたり、前住職の法要について寺族で話し合いました。母が健在の間、父で

ある前住職大院院釋弘三師の法要は、その命日の五月十四日の前の日曜日に毎年勤めてまいりました。

井上家の親族や音楽関係の方々、父の会社関係の方等が遠方から来られたりして、年中行事の一つとして定着していました。

ただ、母が亡くなつたことで、父は前々住職となりました。それでも父を慕う方々は、法要に参加したいと希望されています。

そこで、母の命日に合わせて、年一度、歴代住職の法要を勤めることがあります。母から聞いたことを記します。歴代のお話です。



本堂にて

「秋嶺忌」のこれから

釋由真

(由真記)

十月九日午後二時から、壮年会の命日である十一月八日の前日、七日にお勤めする「秋嶺忌」について、説明させていただきます。

昨年三回忌を勤めるにあたり、前住職の法要について寺族で話しました。母の命日である秋嶺院釋妙澄師の命日である十一月八日の前日、七日にお勤めする「秋嶺忌」について、説明させていただきます。

前住職の法要について寺族で話

しました。母が健在の間、父である前住職大院院釋弘三師の法要は、その命日の五月十四日の前の日曜日に毎年勤めてまいりました。

井上家の親族や音楽関係の方々、父の会社関係の方等が遠方から来られたりして、年中行事の一つとして定着していました。

ただ、母が亡くなつたことで、父は前々住職となりました。それでも父を慕う方々は、法要に参加したいと希望されています。

そこで、母の命日に合わせて、年一度、歴代住職の法要を勤めることがあります。母から聞いたことを記します。歴代のお話です。

福島さんから学んだこと



釋由真

九月十日、元仏婦会長の福島きみ子さん（写真）が往生されました。行年九十歳、宗願寺にとつて恩人のおひとりである福島さんのことを綴つてみたいと思います。

ここに昭和六十一年十月七日、「八回世界仏教婦人大会」を記録した立派な記念誌があります。その中に、仏教婦人会総連盟日本代表として第一分科会で発表された福島さんの言葉が残されていました。で、ここに紹介いたします。

親鸞聖人ご滞在二十余年の歴史を物語る関東一円のご旧跡は、「自信教人信」の実践の足跡であり、当時、群萌と言われた大衆が、聖人と共に如来様のご本願を聞き、それを伝えるためにご法座のお手伝いをし、人間皆平等を説いて歩まれたことは、今でいう革命的なことだったのではないでしょうか。そして晩年には善鸞様義絶という厳しい態度をお示し下さいました。それは今日こうして正しいみ教えに遇わせていただいた私の為だったのでです。

私の姑は、子どもを抱え夫に先立たれ食糧難の時代を乗り越え、これからという胃癌にかかり、苦しい闘病生活をしました。でも

三十数年前のことです。世界中から集まつた仏教婦人会の方々の前で、堂々と発表される福島さんのお姿が目に浮かぶようです。この四年後、カナダのバンクーバーでの世界大会には、母と一緒に参加されました。婦人会活動の中、緊張したり楽しい出会いを経験したり、様々な喜びを体験されたことが想像されます。

前職の右腕として大活躍された福島さんでした。三年前、その母が亡くなつた時にお参りに来られたのですが、体調を心配する私の方で、きちんとお焼香され、「いただいたこのいのちを精一杯生きています」と仰いました。

母が亡くなつた時にお参りに来られたのですが、心配する私の方で、きちんとお焼香され、「いただいたこのいのちを精一杯生きています」と仰いました。

四歳の弥那も「なんまんぶつ」はできるのですが、なかなか集中できません。そして、その後いつも写真立てを擦り、「いいじ、いいこいいこ」と言います。

いつも同じことをするので不思議に思い理由を聞くと、一生懸命になつて「じいじがここにいなくなりいちやうから、大事だから弥那が守つてあげる」と答えました。どうやら「じいじは何らかの理由で私たちといられないなった（亡くなつてしまつた）。写真に写つて目の前にはいるけれど、元の姿に戻る事はない。寂しいだろうから安心させてあげよう」と考

し、その一人は親鸞なり」何と優しい力強いお言葉。姑を支え励まして來たのは、このお言葉だったのです。婦人会活動を通して、聞法に精進し念佛繁盛にご報謝させていただきます。



井上明寿子

彩弥と弥那との日々

井上明寿子

お姉ちゃんが「じいじはなんだぶつになつたんだよ」と教えてることもあるのでしょうか。

次女の言う「ここ」が実家ではなく、私たちと一緒に生きられる場所を指しているのがよく分かりました。

護られているのは私たちの方なのですが、とにかく娘は往生と向き合うご縁をいただきました。

それはこの世の「肝心なこと」で、尊いことに気づく機会でもあります。有難いと感じる私をよそに、子どもたちはお仏壇の前で踊つたり座布団を積んでは崩したりと夢中です。

子どもたちに注意しながら、大きな救いの中の小さな気づきを見落とすことのないよう、精進して行きたいと思いました。

南無阿弥陀仏

編集後記



今年の夏、落雷でお寺の電話とインターネットが壊れました。修理の人があらまで五日間、とても不自由な思いを経験し、皆さまにもご迷惑をおかけしたことをお詫びいたします。

コロナ禍の日々、福島さんを初め、長く世話を人としてお寺を守つてくださった久保健治さん、父の葬儀の頃にはお元気で大活躍してくださった岩崎芳子さん、女性コーラス「新樹会」のメンバーだつた谷井幸子さん等々、母を支えてくださった方々とのお別れを何度か経験しました。

生死を超えて南無阿弥陀仏の中で出逢う、その感動を胸に、自分この先残された時間を使うことです。

口では「終活を始めました」と言つてはみるのですが、祖父母、父母の残していく物の整理が難しくて、困っています。「火事になつたと思えば捨てられる」と言つた母ですが、何も片付けることなく倒れました。

片付け物をしながら、ご門徒さんたちと楽しく過ごす、それが今の目標です。

宗願寺ホームページ	編物教室	仏教壮大年会
	第2・第4土曜日 午後6時	第2・第4火曜日 午前10時
	第3日曜日 午後1時半	16日 午後1時半
宗願寺合唱団の練習		

発行・宗願寺門信徒会
編集責任者・井上由真
(印刷所・阿部印刷)
カット・大建弘子
宗願寺ウェブサイトURL
<https://souwanji.com/>

宗願寺ホームページ
編集責任者・井上由真
(印刷所・阿部印刷)
カット・大建弘子
宗願寺ウェブサイトURL
<https://souwanji.com/>

宗願寺ホームページ
編集責任者・井上由真
(印刷所・阿部印刷)
カット・大建弘子
宗願寺ウェブサイトURL
<https://souwanji.com/>